

# ①城南高校1年 OK

僕は今日、人権学習をするときに一つ驚きがありました。それは、僕一人のみの参加。初めはびっくりしたけど慣れました。そんなことは置いといて、本題へ行きましょう。

今回の人権学習は、アーサービナードという人物といわさきちひろが前半、LGBTQ+が後半のいつもより長めの学習でした。

前半：いわさきちひろ美術館の説明のあと、アーサービナードさんの講演会をしました。内容は主に絵本や紙芝居などを活用した、戦前・中・後の種類の紹介でした。「1945年8月6日あさ8時15分、わたしは」(作いわさきちひろ)「クフシウ」(作アーサービナード)などの戦争を描いた絵本が次々と紹介されました。僕は1つ知っている絵本がありました。それは、「かわいそうなゾウ」です。少なくとも八中の英語の教科書にありました。「ちっちゃい声」という絵本は、特に印象に残りました。ネコが主人公で、残された遺品について語るというようなストーリーでした。詳しくは買ってから見てください！

後半：LGBTQ+のG(ゲイ)に関する映画を見ました！映画のタイトルは分かりません！あらすじとまとめを話すと

- ・会話中にゲイなどの言葉が主人公以外の人が軽く扱っていた。
- ・主人公はゲイで、初めは自分がゲイであることを隠していた。
- ・「隠れゲイ」などの表情や言動から見て否定的に感じられた。
- ・主人公の友達4人は親に「ストレート」であることを明かすと、全員悲しんだり怒ったりしていた。(なかでも「よその子どもを育てた気分」という表現もあった)
- ・主人公は学校の掲示板で書かれていた「blue」にゲイであることをカミングアウトする勇気を与えることができた。
- ・主人公がゲイだとバレたとき、周りにいた先生や生徒などから距離を置かれて一人で寂しく昼食を食べていた。そのときに男性2人がゲイのカップルをバカにした行動を食卓の上でした。主人公を名前呼び、みんなの前でバカにしていた。そのとき誰も彼ら2人を止めなかった。(止めたのは女性の先生のみ) その夜主人公はゲイであることを学校の掲示板に書き、自分とも向き合い、これからの恋愛をするという決意を書いた。公表すると、だんだんみんなが何も感じなくなり、普通の生活へ戻った。この映画から、自分がゲイだと認識し、向き合うことで気持ちが楽になるというメッセージがあると僕は感じた。

僕はこの映画を見て、ゲイの人にとってカミングアウトをしようかなと考えさせるような内容だと思いました。主人公はアウトティング(本人の許可なしに他人にカミングアウトをすること)をされても学校に行けるのが、とてもすごいと思いました。僕なら学校は行けてません。主人公がゲイだと明かしたときの家族のあたたかさがとてもいいと思います。他の参加者も個性豊かで、話しててすごく楽しかったです。僕に近い年代も参加していて親近感を感じることができました。あとお菓子が美味しかったです。SAG徳島夏のみなさんありがとうございました！これを書いているのは今、3時49分。なんと3時間後には部活。なんか変なこと書いてたらごめんなさい！